

菊川市埋蔵文化財報告書第13集

市内遺跡確認調査報告書

(平成19年度)

2 0 1 2 年

菊川市教育委員会

例 言

1 本書は平成19年度に実施した、市内遺跡の開発事業に係わる埋蔵文化財確認調査の概要をまとめたものである。

2 調査にかかる費用は、国庫補助金を受け国1/2、県1/4、町1/4で負担した。

3 調査は、下記の体制で実施した。

平成19年度

調査主体 菊川市教育委員会

調査担当 社会教育課

社会教育課長 妻 木 久

社会教育係長 樽 松 康 之

社会教育係主任主査 泉 敬 秀

〃 主 事 高 木 淳

室内整理員 鈴木玲子 江川きよ子 原田絹子 牧野由真子

現場作業員 織部節子 伊藤初恵 堀内初代 三ツ井しの

黒田文江 伊藤せつ子 植山としゑ 菅沼敏江

4 本書の執筆・編集は、高木が担当した。

5 本書は、試掘調査も含め確認調査として記述している。

6 本書で報告した実測図・写真及び出土遺物は、菊川市教育委員会で保管している。

目 次

I	平成19年度の埋蔵文化財	1
II	確認調査成果	
	①周知外赤土八畝割遺跡	3
	②潮海寺門前町遺跡群	4
	③宮ノ西遺跡	5
	④周知外嶺田遺跡	6
	⑤御屋敷段遺跡	6
	⑥佐栗谷遺跡	7
	⑦栗林遺跡	7
	⑧西峰Ⅱ遺跡	8
	⑨法明寺古墳	9
	⑩周知外長池橋遺跡	10
	⑪周知外奈良野遺跡	11

挿表目次

第1表	平成19年度確認調査一覧表	1
-----	---------------	---

挿図目次

第1図	確認調査位置図	2	第11図	西峰Ⅱ遺跡位置図	8
第2図	周知外赤土八畝割遺跡位置図	3	第12図	西峰Ⅱ遺跡土層図	8
第3図	潮海寺門前町遺跡群位置図	4	第13図	法明寺古墳位置図	9
第4図	潮海寺門前町遺跡群土層図	4	第14図	法明寺古墳土層図	9
第5図	宮ノ西遺跡位置図	5	第15図	周知外長池橋遺跡位置図	10
第6図	宮ノ西遺跡土層及び平面図	5	第16図	周知外長池橋遺跡トレンチ2土層図	10
第7図	周知外嶺田遺跡位置図	6	第17図	周知外奈良野遺跡位置図	11
第8図	御屋敷段遺跡位置図	6	第18図	周知外奈良野遺跡土層及び平面図	11
第9図	佐栗谷遺跡位置図	7			
第10図	栗林遺跡位置図	7			

I 平成19年度の埋蔵文化財

菊川市内の周知の埋蔵文化財包蔵地は300箇所以上を数え、文化財保護のため開発との調整が重要となっている。本年度は、一般開発による文化財有無の受付は42件、農地転用や土地利用委員会では136件、それらのうち埋蔵文化財に該当するものが34件あり、確認調査の対象となったものは6件であった。民間事業で埋蔵文化財の範囲内であったものの内訳は、個人住宅建築が11件、共同住宅建設が2件、携帯電話基地局が3件、不動産鑑定1件で、個人住宅をはじめとする住宅開発が盛んであることが窺える。一般開発による確認調査を行った遺跡は、個人住宅の建築や移転、宅地造成に伴うものが、潮海寺門前町遺跡群、御屋敷段遺跡、栗林遺跡及び西峰Ⅱ遺跡の4件、共同住宅建築に伴うものが周知外赤土八畝割遺跡の1件、店舗建設に伴うものが宮ノ西遺跡の1件、携帯基地局建設に伴うものが周知外嶺田遺跡の1件、墓地移転に伴うものが法明寺古墳の1件で計8件である。

公共事業では耐震型貯水槽設置、道路改良など各種開発が計画されたが、確認調査の対象となったのは耐震型貯水槽設置に伴う佐栗谷遺跡、区画整理事業に伴う周知外周知外長池橋遺跡、県道整備工事に伴う周知外奈良野遺跡の3件であった。

以上のとおり、全体では第1表のとおり11箇所での確認調査を実施した。調査の成果については以下のとおり報告する。また、確認調査地点は第1図のとおりである。

第1表 確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	現況	面積 (㎡)	調査期間	事業目的
①	周知外赤土八畝割遺跡	赤土字八畝割 735-2	沖積地	畑	9	H19.6.11	共同住宅建設に伴う試掘調査
②	潮海寺門前町遺跡群	潮海寺 487-1、490	丘陵	茶畑	6	H19.7.5	個人住宅建築に伴う調査
③	宮ノ西遺跡	加茂 2735-1	沖積地	畑	6	H19.7.5	店舗建設に伴う調査
④	周知外嶺田遺跡	下平川字東方田 1144-1、-3	沖積地	荒地	6	H19.7.20	携帯基地局建設に伴う試掘調査
⑤	御屋敷段遺跡	東横地字御屋敷段 2145-1 他	丘陵	茶畑	6	H19.8.21	宅地造成に伴う調査
⑥	佐栗谷遺跡	高橋 地内	沖積地	道路	6	H19.8.22	貯水槽設置に伴う調査
⑦	栗林遺跡	西方字栗林 500-2	沖積地	畑	9	H19.8.24	宅地造成に伴う調査
⑧	西峰Ⅱ遺跡	富田 27-1、-2	沖積地	茶畑	9	H19.9.13	宅地造成に伴う調査
⑨	法明寺古墳	和田 地内	丘陵	墓地	9	H19.12.26,27	墓地移転に伴う調査
⑩	周知外長池橋遺跡	加茂 地内	沖積地	畑	12	H19.12.29	個人住宅建築に伴う試掘調査
⑪	周知外奈良野遺跡	奈良野 地内	沖積地	田	9	H20.1.22	道路建設に伴う試掘調査



第1図 確認調査位置図

Ⅱ 確認調査成果

①周知外赤土八畝割遺跡

(1) 立地と現況

赤土八畝割遺跡は、菊川市赤土字八畝割に所在する。八畝割の字名は水田が八畝に区画されていたことに由来するとの説もあり、その名の示すとおり、丹野川が形成した沖積地上に水田が広がり、その中に集落が点在している。

今回の調査は共同住宅建設に伴うもので、開発地は水田であったところが埋め立てられて畑地として利用されている。



第2図 位置図

(2) 調査成果

調査は開発予定地に3m×3mのトレンチを設定し、重機で盛り土や耕作土を除去したのちに人力で精査を行った。現況面から旧水田面までの盛り土は約50cm程であった。旧水田面の耕作土は20cm程の厚さである。旧水田面の下は、灰黄褐色粘質土、灰茶褐色粘質土及び黄褐色粘質土がそれぞれ10～20cm程堆積した下に青灰色粘質土層が確認された。今回の調査地点では遺構、遺物ともに確認されなかった。

以上のことから、今回の調査地点までの遺跡の広がりとは確認されなかった。

(3) 事務文書

○試掘調査結果 菊教社第96号 平成19年6月11日付



土層確認



作業状況

②潮海寺門前町遺跡群

(1) 立地と現況

潮海寺門前町遺跡群は、潮海寺地区に位置する。潮海寺地区は菊川が形成した河岸段丘上に展開し、地名の由来でもある潮海寺は古代から続く市内有数の古刹である。開発計画地の現況は茶畑で、接続する道路より50cm程高くなっている。

今回の調査は個人住宅の建築に伴う調査である。

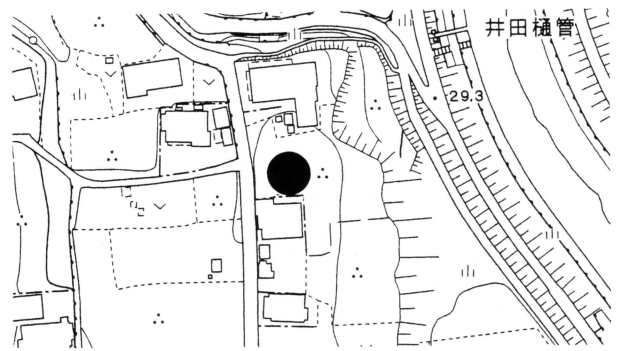
(2) 調査成果

開発計画地内に2m×3mのトレンチを設定し、重機により茶樹と耕作土を除去したのちに、人力で掘削・精査した。茶畑の耕作土は約10～20cm程で、その下に当地域周辺で通称「黒ボク土」と呼ばれる黒褐色土が40～50cm程堆積している。黒褐色土層は耕作などにより攪乱されており、少量の土器片が出土したが、遺構面は確認されなかった。黒褐色土の下は少量の礫が混ざる黄褐色土層となり、これが基盤層とみられる。

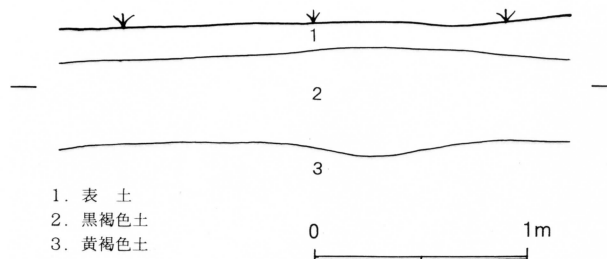
以上の結果から、今回の調査地点では遺構面は確認されなかったが、黒褐色土中に遺物が混入していることから、周辺では遺構が残存している可能性があると言える。

(3) 事務文書

- 確認調査結果 菊教社第132号 平成19年7月11日付
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第133号 平成19年7月11日付
- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第134号 平成19年7月11日付 ポリコンテナ1箱分



第3図 位置図



- 1. 表土
- 2. 黒褐色土
- 3. 黄褐色土

0 1m



断面確認

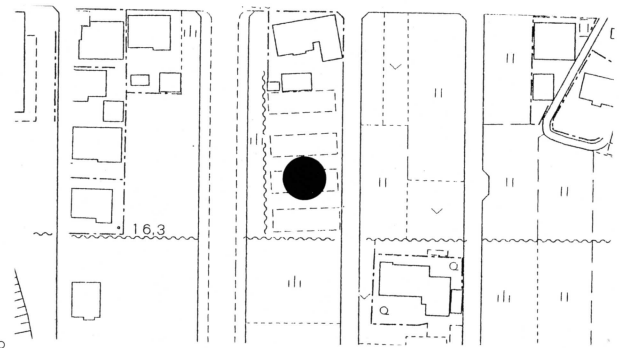
第4図 土層図

③宮ノ西遺跡

(1) 立地と現況

宮ノ西遺跡は、菊川市加茂字宮ノ西に所在し、菊川と西方川に挟まれた沖積地上に展開する。遺跡及びその周辺は、南北に走る県道掛川浜岡線バイパスの開通と区画整理事業の進展により開発が進み、数年前までは水田が広がる一帯であった面影が薄れつつある。調査地点は水田を埋め立てて温室栽培が営まれていたが、開発に先立ち温室は撤去されている。

今回の調査は店舗建設に伴う調査である。



第5図 位置図

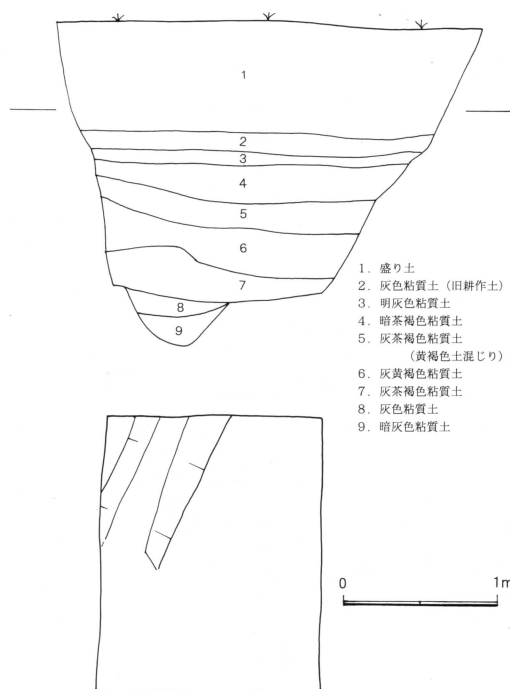
(2) 調査成果

調査は開発地内に2m×3mのトレンチを設定し、重機で埋め立て土と旧耕作土を除去したのちに人力で掘削及び精査して調査を実施した。水田が埋め立てられた深さはおよそ80cmで、旧水田面は10cm程見られる。その下は暗茶褐色粘質土が10～20cm、黄褐色土が20cm程堆積しており、現在本調査実施中の地区と同様の層位が確認された。

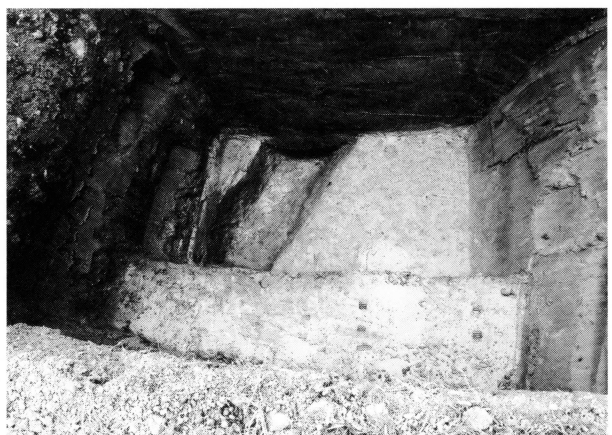
以上の結果から、開発地まで遺構面が残存している可能性が確認された。

(3) 事務文書

- 確認調査結果 菊教社第135号 平成19年7月11日付
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第136号 平成19年7月11日付
- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第137号 平成19年7月11日付 ポリコンテナ1箱分
- 埋蔵文化財発掘調査の届出 文化財保護法第93条第1項 平成19年7月11日付
- 土木工事等のための発掘に係る指示 教文第808号 平成19年7月26日付 立会調査



1. 盛り土
2. 灰色粘質土 (旧耕作土)
3. 明灰色粘質土
4. 暗茶褐色粘質土
5. 灰茶褐色粘質土 (黄褐色土混じり)
6. 灰黄褐色粘質土
7. 灰茶褐色粘質土
8. 灰色粘質土
9. 暗灰色粘質土



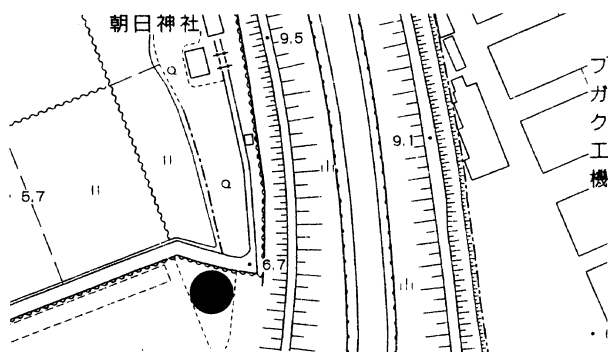
完掘状況

第6図 土層及び平面図

④周知外嶺田遺跡

(1) 立地と現況

嶺田遺跡は、菊川市中央西部の小笠北地区に所在し、牛瀧川と丹野川など複数の河川が合流あるいは接近しながら形成した沖積地上に立地する。遺跡のすぐ北には朝日神社古墳が所在している。開発地周辺は水田が広がる一帯であるが、調査地点の東から南にかけての牛瀧川の対岸は店舗や住宅、市役所小笠支所などが集まる旧小笠町地区の中心地である。開発予定地は水田を埋め立てて鶏舎として利用されていたが、現在は鶏舎も撤去され荒地となっている。



第7図 位置図

今回の調査は携帯基地局建設に伴う周知外遺跡の範囲確認のための調査である。

(2) 調査成果

開発用予定地内に2m×2mでトレンチを設定し、重機による表土掘削ののち、人力で精査して調査を実施した。鶏舎として利用するための盛り土は100cm程で、その下に旧耕作土が40cm程みられる。その下には黄褐色土が20～30cm程堆積し、さらに茶褐色土が10cm以上堆積しているが、遺構及び遺物は確認されなかった。

以上の結果より、当地点の調査では遺跡の広がりを確認するには至らなかった。

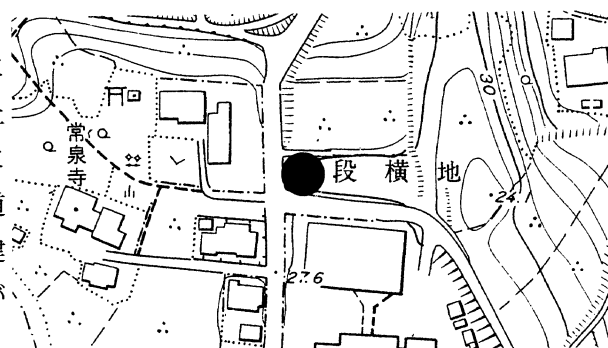
(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第158号 平成19年7月23日付

⑤御屋敷段遺跡

(1) 立地と現況

御屋敷段遺跡は、菊川市横地地区南西部の丘陵上に位置する。丘陵の北側では菊川が北から、牛瀧川が丘陵に沿うように東から西、そして南へ流れ、両河川によって形成された沖積平野が広がっている。南には道路を挟んで市立横地小学校が隣接しており、体育館建設時の調査では縄文から中世にかけての遺構・遺物が確認されている。



第8図 位置図

今回の調査は宅地造成に伴うもので、開発地の現況は茶畑となっている。

(2) 調査成果

調査は、開発予定地内に2m×3mのトレンチを設定し、重機による表土掘削ののちに人力で掘削して調査を行った。茶畑の耕作土は約20cmで、開墾による攪乱が60～70cm程見られた。その下は黄褐色土層となり、これが地山とみられる。攪乱された中から土師器等が出土したが、地山からの遺物、遺構は確認できなかった。

以上の結果、今回の調査地点は、後世の開発により遺構面が消失している可能性が高い。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第177号 平成19年8月23日付

⑥佐栗谷遺跡

(1) 立地と現況

佐栗谷遺跡は、菊川市南部の高橋地区に所在し、牧之原台地に連なる丘陵から流れる江川が切り開いた、東西に細長く伸びる沖積地上に展開している。周辺には平地部分を利用した水田が広がっている。調査区の現況は市道となっている。

今回の調査は耐震性貯水槽の埋設工事に伴うものである。

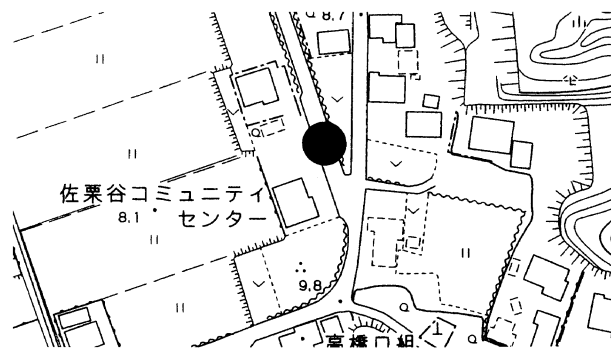
(2) 調査成果

開発地内に2m×3mのトレンチを設定し、機械と人力により表土を除去し調査を実施した。市道建設による路盤改良が60cm程、埋め立てが20cm程なされていた。その下は旧耕作土で、近現代の陶磁器片が混入していた。旧耕作土の下には青灰色粘質土が約40cm、暗灰色粘質土が約30～40cmそれぞれ堆積していたが遺構、遺物ともに確認されなかった。

以上のとおり、今回の開発地点では遺跡の広がり確認されなかった。

(3) 事務文書

- 確認調査結果 菊教社第180号 平成19年8月23日付
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第181号 平成19年8月23日付
- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第182号 平成19年8月23日付 ポリコンテナ1箱分



第9図 位置図

⑦栗林遺跡

(1) 立地と現況

栗林遺跡は菊川市北西部の西方地区に位置する。遺跡周辺には白岩遺跡をはじめとして弥生から古墳期を中心とする遺跡が西方川沿いに集中している。調査区周辺は西方川の形成した沖積地上に水田が広がり、宅地と水田が混在する。調査区の現況は水田を埋め立てて未舗装の店舗駐車場として利用されている。

今回の調査は個人住宅建築に伴う調査である。

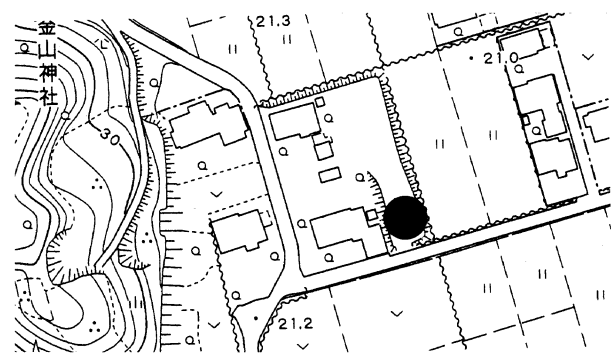
(2) 調査成果

開発予定地内に3m×3mのトレンチを設定して調査を実施した。水田の埋め立ては80～100cm程であった。水田の耕作土は30cm程で、耕作土の下は黄褐色粘質土が20～30cm堆積している。過去の調査ではこの黄褐色土層が遺構検出面となっている。さらに黄褐色土層の下には明青灰色粘質土が堆積しているが、遺構及び遺物は確認されなかった。

以上のことから、今回の開発地予定地内には遺構の広がり確認されなかった。

(3) 事務文書

- 確認調査結果 菊教社第254号平成18年10月27日付
- 埋蔵文化財発掘調査の届出 文化財保護法第93条第1項 平成19年9月28日付
- 土木工事等のための発掘に係る指示 教文第1271号 平成19年10月9日付 立会調査



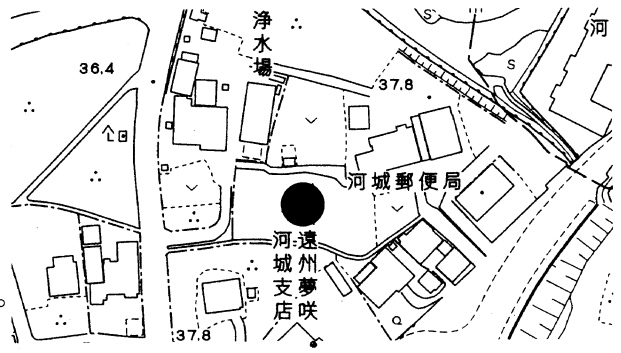
第10図 位置図

⑧西峰Ⅱ遺跡

(1) 立地と現況

西峰Ⅱ遺跡は、菊川市北東部の河城地区の富田地内に所在する。開発地の北西では東から流れる菊川と北から流れる富田川が合流する。遺跡周辺には赤谷遺跡をはじめとして、河岸段丘上や牧之原台地からのびる丘陵上に縄文～古墳期を中心とする遺跡が点在する。調査区の現況は茶畑と宅地となっている。

今回の調査は宅地造成に伴う調査である。



第11図 位置図

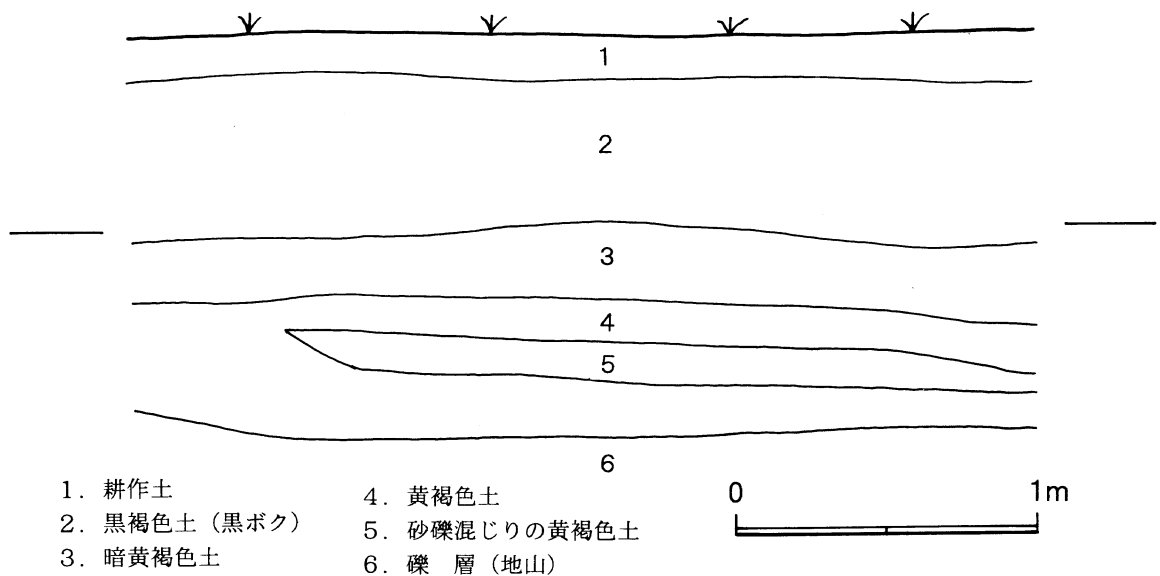
(2) 調査成果

開発計画地内に3m×3mのトレンチを設定し、重機と人力により調査を実施した。茶畑の耕作土は10～15cm程であった。耕作土の下は黒ボク土と呼ばれる黒褐色土がみられ、その下には暗黄褐色土が北（川側）へやや傾斜しながら堆積している。暗黄褐色土の下は拳大から頭部大の円礫からなる層となり、これが基盤層と考えられる。今回の調査では耕作土内で焼土のかたまりが確認されたほかは遺物、遺構ともに確認されなかった。

以上の結果より今回の調査では遺構、遺物ともに確認されず、遺構の広がりや遺跡の性格を把握するまでにはいたらなかった。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第220号 平成19年9月28日付

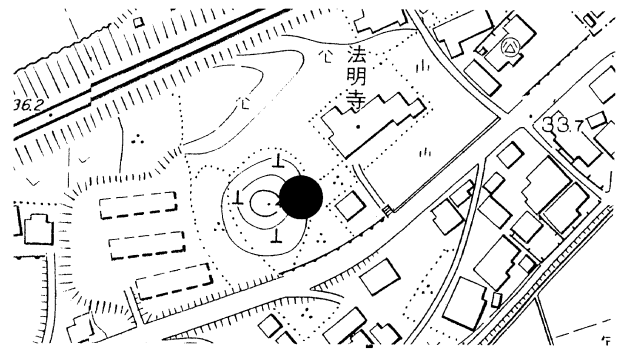


第12図 土層図

⑨法明寺古墳

(1) 位置と現況 法明寺古墳は、菊川市河城地区の和田地内の法明寺境内に所在する。当古墳は菊川市内でも最北に近い古墳で、5～6世紀ごろの円墳とされる。開発地の現況は墓地であるが、今回の開発に先立ってすでに移転済みである。

今回の調査は、法明寺の南を走る県道吉田大東線の拡幅工事による墓地移転に伴う調査である。



第13図 位置図

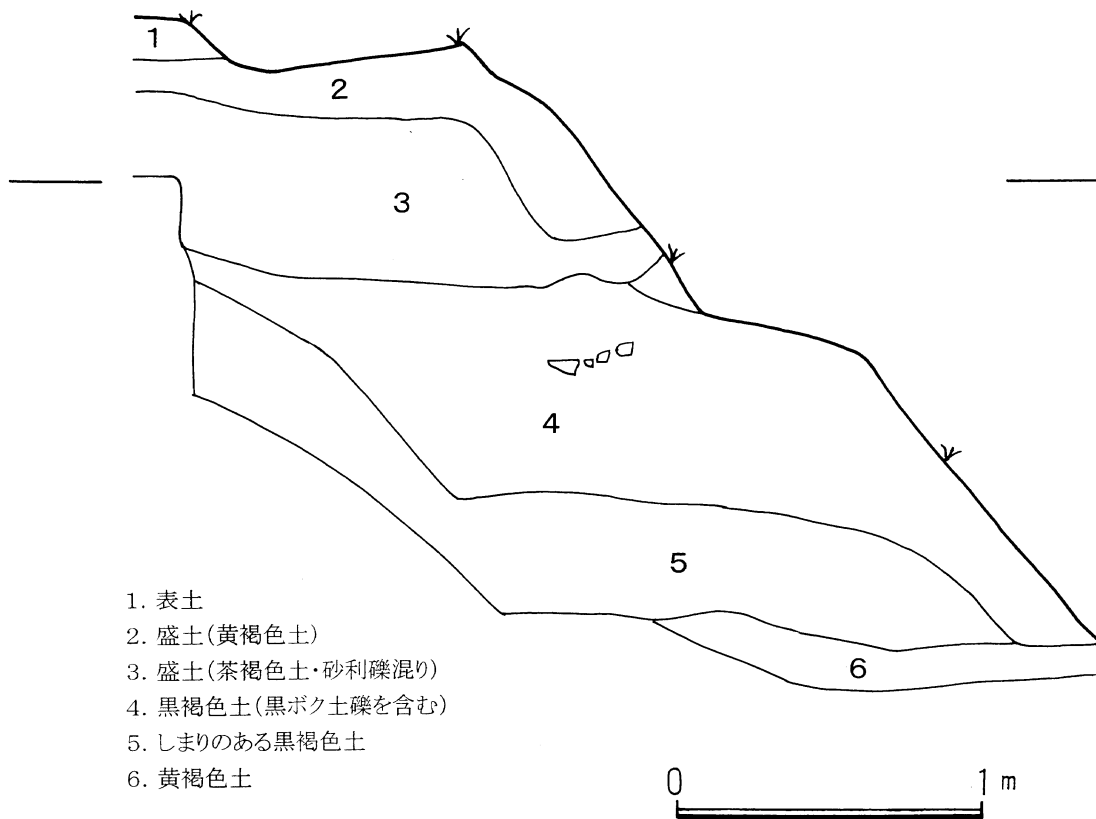
(2) 調査成果

調査は重機の使用を石垣等の除去にとどめ、掘削は人力で行った。表土の下は砂礫混じりの黄褐色土が階段状に盛られている。黄褐色土の下は径10～15cm程の礫混じりの茶褐色土層で、礫は納骨棺の割栗と考えられる。この層には墓に供えられた寛永通宝や明治期の銭貨の他、近現代の陶器片やなどが混入していた。さらに下層を確認したところ、礫の混ざらない茶褐色土層の下で基盤層となる黄褐色土層が確認できた。今回の調査では古墳にともなう遺物や墳丘の版築構造などは確認されなかった。

以上の結果より、今回の開発地は古墳の墳丘面を利用して墓地が造成されたとみられていたが、実際は墳丘面を削って墓地が造成されていた。このことから、他の区画の墓地も墳丘面がすでに削平されている可能性が高いと考えられる。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第228号 平成20年2月28日付

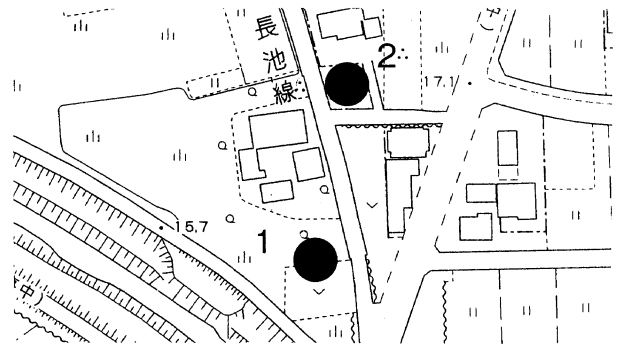


第14図 土層図

⑩周知外長池橋遺跡

(1) 位置と現況

長池橋遺跡は、菊川市の加茂地区字長池に位置し、西方川が形成した沖積地上に位置する。西方川は遺跡のすぐ東を南に流れ、川を挟んだ東には宮ノ西遺跡が沖積地上に広がっている。宮ノ西地区は土地区画整理事業の進展により、近年開発が急速に進み、隣接する長池地区も共同住宅の建設などが続いている。開発地の現況は2箇所とも畑となっている。



第15図 位置図

今回の調査は区画整理事業による宅地移転に伴う調査である。

(2) 調査成果第

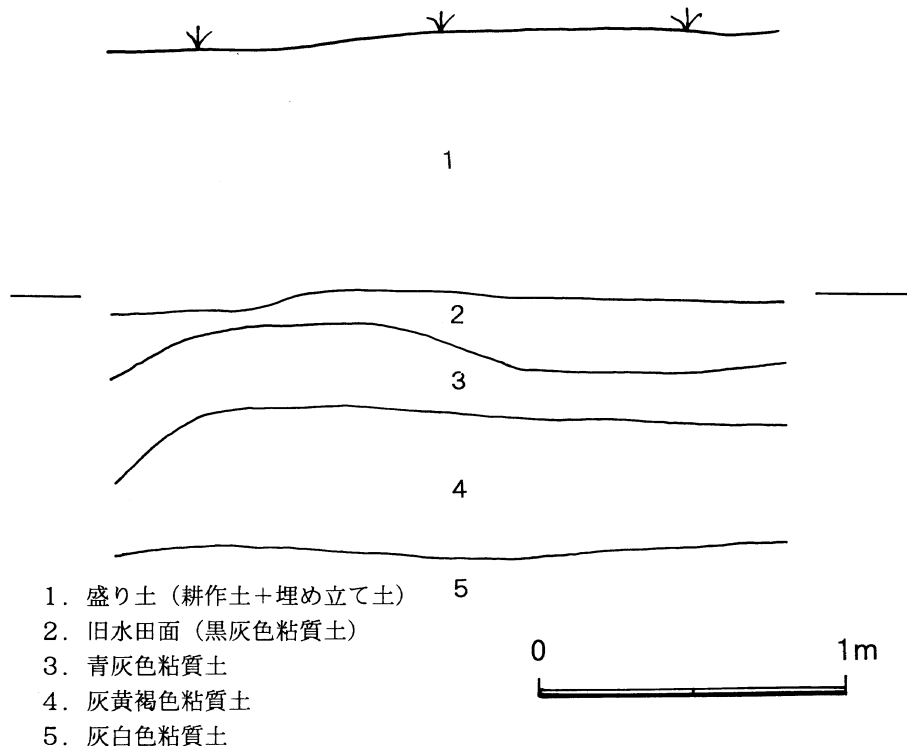
移転予定地に2m×3mのトレンチを2箇所設定し、重機による表土除去の後に、人力による掘削及び精査により調査を実施した。トレンチ1は畑の耕作土及び盛り土が50～80cm程堆積しており、その下に灰茶褐色土層が50cm、青灰色粘質土層が30～50cm堆積している。トレンチ2では畑の耕作土及び盛り土が80～100cm程堆積しており、その下に青灰色粘質土が約30cm、灰茶褐色土層が約30cm堆積している。その下はいずれのトレンチも周辺で無遺物層となる灰白色粘質土となる。今回の調査では遺構及び遺物は確認されなかった。

以上の結果より、今回の地点で遺跡の範囲の広がりを確認することはできなかった。

(3) 事務文書

○試掘調査結果

菊教社第242号 平成20年3月3日付



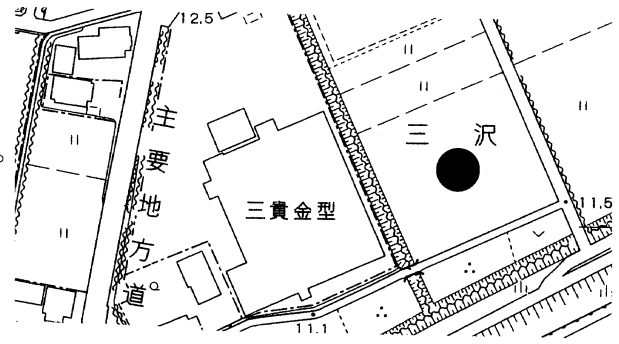
第16図 トレンチ2土層図

⑪周知外奈良野遺跡

(1) 位置と現況

奈良野地区は菊川市横地の南西部に位置する。開発地の北には御領所遺跡や林光寺遺跡などの古墳～中世にかけての遺跡が菊川の流れに沿って分布する。調査地点の西には県道掛川浜岡線が南北に走る。

今回の調査はその県道のバイパス新設に伴うものであり、調査地の現況はほ場整備された水田となっている。



第17図 位置図

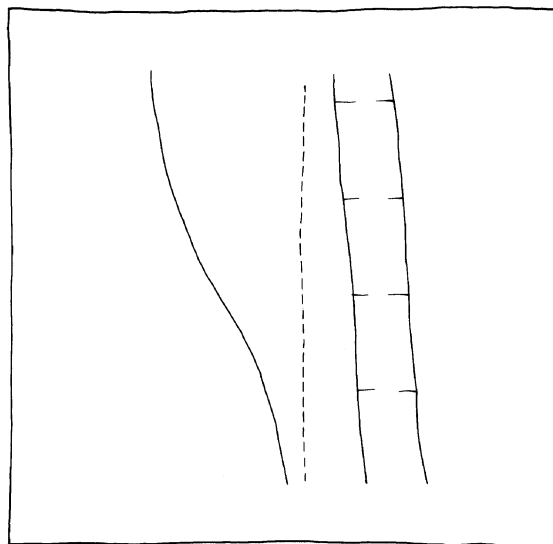
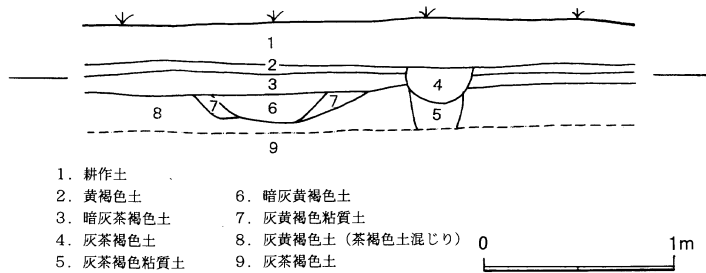
(2) 調査成果

開発予定地内に3m×3mでトレンチを設定し、重機で耕作土を取り除いてから人力で掘削して調査を行った。耕作土の下20cmで黄褐色土層が見られ、東西方向に流れる溝と遺構周辺から中世陶磁器が数点出土した。さらに調査区の一部を下層確認のために掘り進めたところ、5cm程下で暗灰茶褐色土の層が確認された。この層でも溝状の遺構が確認され、遺構内から土師器が出土しており古墳期の遺構になる可能性がある。

以上のとおり、今回の開発地は新規の埋蔵文化財包蔵地となる可能性があり、今後も調査を重ねる必要がある。

○確認調査結果

菊教社第229号 平成20年2月28日付



第18図 土層及び平面図

菊川市埋蔵文化財調査報告書第13集
市内遺跡確認調査報告書
(平成19年度)

編集・発行 静岡県菊川市下平川6225
静岡県菊川市教育委員会
TEL 0537-73-1137
印刷 株式会社 アプライズ
発行年月日 平成25年3月15日